

市長提案説明要旨

平成28年6月8日

本日ここに平成28年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

甚大な被害と多くの方の命を奪った熊本地震の発生から、間もなく2か月を迎えようとしています。想像を超える被災地の惨状の報道を見るたびに、5年前の東日本大震災の記憶と重なり、胸が締め付けられる思いでいっぱいであります。

ここに、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災をされました皆様に心からお見舞いを申し上げます。

今なお、多くの方が避難生活を余儀なくされておりますが、1日も早く笑顔で安心な暮らしを取り戻せるよう、心から願っております。

市といたしましても、発災直後から情報収集に努め、本市における子育て支援への積極的な取組みの観点や被災現地のニーズを踏まえ、子育てに欠かせない離乳食のほか、紙皿、マスク、シャンプーなどの支援物資を提供するとともに、避難された方々の健康管理や心のケアの支援のため、茨城県・市町村保健チームの一員として保健師1名を4月26日から5月1日まで派遣しました。更に、必要な職員の派遣要請がありましたら、速やかに対応してまいります。

市民の皆様におかれましても、様々な機会を通して、義援金などあたたかい支援を行っていただいておりますことに感謝申し上げます。

今回の熊本地震では、強い余震の多発による住宅倒壊への懸念などから避難者数が想定を超え、避難所に入りきれず、車の中やテントで避難生活を送る方も多く、エコノミークラス症候群を発症して亡くなった方もおります。また、ストレスのない居住環境の確保をはじめ、高齢者、女性などの多様な視点での避難所の運営や物資の分配などをめぐる課題が指摘されています。

市といたしましても、東日本大震災の教訓や熊本地震を含めて多発する大規模災害などを検証し、防災・減災対策の推進に不断に取り組んでまいります。

(国内情勢)

国内の経済情勢であります。内閣府が発表した5月の月例経済報告によりますと、住宅建設や設備投資に持ち直しの動きが見られるものの、個人消費や企業収益には足踏みが見られるとするなど、景気の基調判断を「弱さも見られるが、緩やかな回復基調が続いている。」と据え置きました。

また、先行きについては、「雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効

果もあって、緩やかな回復が期待される。」としていますが、海外経済の不確実性の高まりや熊本地震の経済に与える影響が懸念されています。

こうした中、政府は、東日本大震災からの復興・創生、熊本地震による被災者の生活支援などに取り組むとともに、経済再生と財政健全化の双方の実現に向けて、平成27年度補正予算と平成28年度予算を迅速かつ着実に執行するとしています。

市においても、平成28年度事業を早期に取り組み、市民サービスの向上と地域経済への波及効果を発揮できるよう努めてまいります。

(スポーツ先進のかしま)

市内スポーツ界の目覚ましい活躍が、市民の皆様に感動と元気を与えています。新日鐵住金鹿島硬式野球部(カシマ・ブルー・ウィングス)は、6月1日から5日まで群馬県太田市で開催されました第87回都市対抗野球北関東大会を見事な戦いで勝ち抜き、3年ぶり16度目の本大会出場が決定しました。

本大会は、東京ドームで7月15日から12日間にわたり熱戦が繰り広げられますが、これまで培ってきた力と技、そしてチームワークを存分に発揮され、悲願の黒獅子旗を鹿嶋の地に持ち帰られることを期待しております。

私も市民の皆様とともに、スタンドから精一杯、応援をさせていただきます。

一方、我らが鹿島アントラーズは、川崎フロンターレや浦和レッズと激しい優勝争いを繰り広げています。5月29日のヴァンフォーレ甲府戦では4対0と圧勝し、次の浦和レッズとの直接対決に向けて大きく弾みをつけました。

J1リーグ第1ステージも残すところ、あと3試合。厳しい戦いが続きますが、一戦一戦全力プレーで、必ずや優勝の栄冠を勝ち取っていただきたいと思います。

6月25日の最終戦、カシマサッカースタジアムでのアビスパ福岡戦では、皆様とともに優勝の喜びを分かち合えるよう、多くの市民の皆様の声援をお願いいたします。

市では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層でのスポーツ活動が活発に行われ、交流の輪も広がっています。

去る5月12日にト伝の郷運動公園で開催されました「第21回鹿嶋市長杯シニアスポーツ大会」には、80歳以上の方28人を含む約570人がグラウンドゴルフなどに汗を流しながら、スポーツの楽しさを満喫しておりました。

このあとも、8月6日、7日の平井海岸での「アントラーズカップ2016かしまビーチサッカー大会」をはじめ、様々なスポーツイベントが開催されます。

このように、「観る」「体験する」「交流する」といったスポーツの持つ多様な魅力と鹿嶋の豊かな自然を生かしながら、「スポーツ先進のかしま」づくりを推進してまいります。

(住みよいかしま)

子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは、未来・鹿嶋に向けた投資でもあります。

市では、「子育てするなら鹿嶋市で」の環境整備に向け、子宝手当の支給や医療費助成の拡大、新たな認可保育園の整備による保育園入所待機児童ゼロなどの様々な子育て施策に積極的に取り組んでおります。

核家族化や地域コミュニティの希薄化により育児中の親子が孤立し、育児不安や育児ストレスから虐待につながるなど、全国的に大きな問題となっております。

そのため、今年度から、0歳児親子を対象に、育児不安や孤立感の解消を図れるよう安心できる居場所づくりを進めてまいります。

妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を図り、誰もが安心して産み育てやすい環境を整備してまいります。

花々が咲き誇り、ごみのない清潔なまちづくりは、市民の郷土愛を育み、人々の心に潤いと元気を与えるとともに、まち全体の魅力を高めます。

今年も「花いっぱい運動」が、6月18日に国道51号バイパス、124号バイパスの沿道で開催されます。市民の皆様をはじめ、企業や団体など多くの方々のご協力をお願いいたします。

また、地域の環境を守るため、環境サポーター629名が日頃から目を光らせながら巡回活動などを行い、不法投棄の監視にあたっております。今月5日には、約320名の環境サポーターの参加のもと、第12回鹿嶋市環境サポーター統一行動が開催され、チェリオ前の国道124号沿いの歩道をパレードするなど不法投棄の撲滅を訴えました。

平成31年には茨城国体、翌年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、本市にも内外から多くの人を訪れることが見込まれます。

市民をはじめ、企業、各種団体などの皆様とともに、花いっぱいでごみのない、もてなしのある美しいまちづくりを進めてまいりますので、さらなるご協力をお願いいたします。

(活力あるかしま)

鹿島港の利用促進については、関係機関に対し要望活動を行ってきたところですが、この度、5年ぶりに定期航路開設という、うれしい知らせが届きました。韓国の船会社による北公共埠頭を利用した新規コンテナ船で、7月6日から毎週1便が就航することとなります。

一方、鹿島港外港地区の外港公共埠頭は、平成25年の暫定供用開始以来、静穏度が十分に満足されていないことや航路・泊地の水深不足などにより、大水深としてのメリットを享受できない状況が続いております。

これまで、幾度となく行ってまいりました国への要望活動が実り、平成27年

度の港湾整備事業費は54億9千万円、今年度はさらに増額の65億4千万円と近年にない予算が確保されております。

整備を担当する国土交通省鹿島港湾・空港整備事務所からは、南防波堤の延伸や航路・泊地の浚渫などを実施することにより、航行船舶の安全性が向上されるとの説明を受けたところであります。

鹿島港の整備及び利用の促進は、鹿島臨海工業地帯立地企業の国際競争力向上や地域経済の活性化に大きく寄与するものであり、引き続き、港湾関係者の意見を伺いながら、安全で使いやすい港となるよう、国・県への要望やポートセールスなどの取り組みを推進してまいります。

鹿島ハイツを中心に56ヘクタールに及ぶ周辺区域において、民間事業者による既存スポーツ施設の機能充実と併せて、新たな観光・レジャー施設の整備計画が進められております。また、その隣接地においても、農業生産法人による農地利用の集積と大規模な田畑転用による花き類の栽培計画が進められており、四季折々の花木鑑賞ができる観光資源としても活用する方向で検討されております。

これらの事業は、スポーツ先進のかしまを推進し、さらには観光客の増加や雇用の創出などにより地域活性化への波及効果が大きいと期待されます。

市においては、現在、関係機関と協議を進めておりますが、事業者には、温泉施設や観光PR施設の整備なども要請しており、観光客ばかりでなく市民にとっても魅力ある施設となるよう調整してまいりたいと考えております。

国の地方創生先行型交付金を受けて整備した「鹿嶋神の道」の新コース「剣聖の里」のオープニングセレモニーが5月21日に行なわれ、約150人のウォーキング愛好家で賑わいました。

「剣聖の里」コースは、豊郷公民館を発着地点にして、坂戸神社、沼尾神社の鹿島三社詣りの古道と剣聖・塚原ト伝の墓などを巡る約12キロの道のりです。

鹿嶋の歴史・文化と里山の風情を残す豊かな自然を満喫できるコースとなっておりますので、多くの皆様に足をお運びいただきたいと思います。

鹿嶋の魅力を体感できるイベントが目白押しであります。

豊かな海と海岸利用をテーマにした「かしまビーチフェスタ2016」が、5月22日に平井・下津海岸、鹿島灘漁業協同組合魚市場で開催されました。

当日は、風が強く、地引網と漁船の体験乗船が中止となりましたが、歌やダンス、ものまねタレントショーなどが行われたほか、ビーチ相撲、鹿島アントラーズによるキックターゲットなど盛りだくさんの催しが行われました。

「うまいもん市場」のグルメ屋台では、焼ハマグリや海の幸パスタ、海鮮鉄板焼きなど、地元の海の幸の美味しさに皆さん舌鼓をうっていました。

また、同時に開催しました「第1回鹿嶋シーサイドビーチラン」には、京都府

をはじめ、宮城県、栃木県、東京都など県外からの参加を含め約600名のランナーがエントリーし、走り慣れない砂浜に足を取られながらも、平井・下津海岸をさっそうと駆け抜けていました。

ビーチバレーの元日本代表で、NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長である朝日健太郎さんもゲストランナーとして花を添えていただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。また、参加ランナーに用意したシラス丼も大好評でした。約3,000名の皆様にご来場をいただき、初夏の鹿嶋を楽しんでいただけたものと思います。

平井・下津海水浴場は、7月16日から8月21日までの37日間開設いたします。今年度は、「サメ対策」として、陸からのライフセーバーの監視と合わせ、水上監視を実施し、安心して楽しんでいただける海水浴場を目指してまいります。

これからも、鹿嶋の豊かな海岸を活用した観光資源としての魅力を向上させ、アピールしてまいります。

新たな取組みとして、地元海産物を使った学校給食を提供してまいります。

今年度は、6月17日にシラスご飯を、2回目の11月には別の献立を予定しております。

魚離れが進む子どもたちに、学校給食を通して、地元海産物のおいしさを知ってもらい、食育と地元食材への関心を高め、地産地消を推進してまいります。

夏の風物詩である「第38回鹿嶋市花火大会」は、8月27日に開催します。

花火大会の目玉として定着した関東一の尺玉108連発をメインに、水中花火や特大スターメインなど、今年も見どころがいっぱいあります。

昨年は、ふるさと納税の返礼品として、メッセージ付き花火の打上げと特別観覧席、宿泊券がセットになった商品が大変好評をいただきました。今年も昨年と同様、鹿嶋の魅力を積極的にPRしてまいります。

（人が輝くかしま）

学校は、子どもたちが一日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難所としての役割も担っており、市としては、全ての市立小・中学校施設の耐震化率100%を達成するなど、子どもたちの安全で安心な環境づくりに積極的に取り組んでまいりました。

昭和42年に建設され、49年に建て増しされた鹿島小学校の校舎については、今年度、大規模改造工事を実施します。

5月のゴールデンウィークから工事に着手しておりますが、安全確保と授業に配慮しながら、夏休み期間中に集中的に工事を行い、普通教室の改修工事を完了させます。工事に伴う机や椅子などの移動に当たっては、保護者の皆様にご協力をいただけると伺っております。学校に対する愛着の表れであり、大変ありがた

く思っております。

工事期間中は、児童、保護者の皆様はもとより、児童クラブやスポーツ開放などを利用される方にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

今後も、子どもたちが安全・安心な学校生活が送れるよう、計画的な施設改修に努めてまいります。

国際社会を担う子どもたちには、広い視野で異文化を理解し、自己の確立と異なる文化を持つ人々とともに協調していくことの大切さを教えていくことが重要であります。

平成16年度から始まった中学生国際交流事業については、今年は6月11日から14日まで韓国西帰浦市の中学2年生15名を受け入れ、10月には鹿嶋市の中学2年生15名を派遣し、ホームステイによる相互交流を行います。

また、中学3年生を対象に、福島県にある英国を再現した研修施設で、英国の文化、マナーを体験しながら、外国人講師による英語の本格レッスンなどを行うイングリッシュサマーキャンプ事業を実施します。参加者を昨年度より6名増の30名に拡充し、7月24日から26日までの3日間、英語力アップのみならず、異文化への理解を深めていただきます。

こうした貴重な体験が、広い視野と国際感覚をもった世界に通じる「鹿嶋っ子」の育成につながっていくものと確信しております。

(頼もしいかしま)

去る4月1日に「高松地区防災公園」が開園しました。

この防災公園は、津波襲来時には、市民の皆さんの生命を守ることを最優先する一次緊急避難場所としての機能を有しております。

防災公園の敷地面積は約6,000平方メートル、高台の高さは7メートル、高台部には500人が避難可能となっています。

併せて、防災公園への避難路には、蓄電池内臓型のLED使用の避難誘導灯を整備し、停電時における避難への対応など、地域の防災・減災機能の強化を図っております。

また、芝生の多目的広場を併設しており、平常時には、筑波山が望める憩いの場として、多くの市民の皆様にご利用していただきたいと思っております。

救急出動の増加、地震や集中豪雨など大規模災害の頻発、住民ニーズの多様化など様々な緊急事態への対応力や、住民の生命・財産を守るための防災力の強化が求められています。

そのため、県内20消防本部33市町が消防救急デジタル無線及び消防指令業務の共同運用を行う「いばらき消防指令センター」が6月1日に本格稼働を開始

しました。

鹿島地方事務組合消防本部においては、今年2月1日から運用を開始しておりますが、いばらき消防指令センターの共同運用により様々な情報が一元化され、よりの確で迅速な消防・救急時への対応や救急搬送時間の短縮など大いに期待をしております。

地域の防災力の向上を図るうえで消防団の果たす役割は大きく、東日本大震災などでの目覚ましい活動ぶりを踏まえ、その存在や役割の重要性が再認識されるとともに、地域住民からの信頼もより厚くなっております。

現在、市内には56分団、総勢762名の消防団員が活動されております。日頃の活動に対しまして、改めて感謝申し上げます。

5月22日には、カシマサッカースタジアム駐車場において、消防団員450名の参加のもと、鹿嶋市消防団統一訓練を実施し、消火器やAEDなどを使用した新入団員訓練や規律訓練、大規模火災や近隣に消防水利がない火災などを想定した消防ポンプ中継訓練などを行いました。団員一人ひとりが真剣な眼差しで訓練に励む姿を見て、大変心強く、頼もしく感じております。

消防団の皆様には、引き続き、日頃からの研鑽をお願いするとともに、地域消防力の強化に向けて、ご尽力をいただきたいと願っております。

安全なまちで安心して暮らしていくことは、市民すべての願いであり、良好な治安の確保は優先される課題であります。引き続き、地域や関係機関、議会の皆様と連携を図り、市民の安全・安心の確保に向けて努めてまいります。

（自立したかしま）

マイナンバーカードについては、身分証明書や各種行政手続のオンライン申請などへの活用の拡大が予定されております。

市では、マイナンバーカードを利用して、住民票の写しなど各種証明書を全国のコンビニエンスストアで取得できる「コンビニ交付サービス」の導入を今年12月に予定しております。

市における5月末現在のマイナンバーカードの交付申請は5,500件であり、このうち3,827件のカードを交付しております。

私自身も、先日、マイナンバーカードを作成しましたが、引き続き、市の広報紙やホームページなどを通じて、市民への普及・啓発に努めてまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が1件、条例関係議案が3件、道路認定議案が1件、契約関係議案が4件、報告議案が3件、合わせて12件であります。

まず、予算関係議案は、平成28年度一般会計の補正予算であります。

歳入予算は、国庫支出金及び繰越金の増額を見込み、歳出予算は、公共交通対策事業の増額を計上しております。

次に、条例関係議案は、いずれも改正するものであり、「鹿嶋市医療福祉費支給に関する条例の一部を改正する条例」などであります。

道路認定議案は、市道3路線を認定するものであります。

契約関係議案は、鉢形地区及び平井東部地区における液状化対策工事の請負契約について、議会の議決を求めるものであります。

報告議案は、鹿嶋市固定資産評価審査委員会条例等の一部を改正する条例などの専決処分の報告であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。